様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２年　６　月　１２　日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：2008～2009
課題番号：20820039
研究課題名（和文）１８世紀中期イギリスにおける巡回式庭園の成立と受容に関する研究

研究課題名（英文）A Study of the Origins and Reception of Circuit Gardens in Mid-Eighteenth Century Britain

研究代表者
岩佐　愛（IWASA MEGUMI）
武蔵大学・人文学部・講師
研究者番号：40459970

研究成果の概要（和文）：１８世紀中期イギリスで成立したサーキット・ガーデン（巡回式庭園）の間には何らかの相互連関が想定されるが、こうした庭園の間には単純な模倣関係が存在するわけではない。各庭園には規模・形態・目的に応じ異なる造園・鑑賞方法が存在するばかりでなく、庭園間には文学的・芸術的交友関係を通じた交流や接点が存在する可能性が高い。こうした相互連関は従来のイギリス庭園史や英文学史研究の文脈では見過ごされがちなものである。

研究成果の概要（英文）：The mutual connections of the circuit gardens established in mid-eighteenth century Britain are not the simple imitations of the existing gardens. Those gardens had different requirements for the gardeners and visitors to create and appreciate them. They also seem to be connected each other by hitherto little acknowledged literary and artistic relationships, the significance of which has not been fully investigated by the conventional studies of English garden history and literary history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,290,000	387,000	1,677,000
2009 年度	1,170,000	351,000	1,521,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,460,000	738,000	3,198,000

研究分野：人文社会系　人文学
科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般
キーワード：庭園史，風景庭園，サーキット，受容美学，美術史，建築史，文学史

１．研究開始当初の背景

(1) 学術的背景

１８世紀イギリスに成立した風景庭園（landscape gardens）は、イギリス庭園史研究における中心的分野のひとつである。これまでに、芸術・美術・文学・美学・政治・社会史など様々な角度からの研究が積み重ねられてきた。学問的研究対象としての風景庭園は、まさにこうした様々な要素を併せ持つ複合体としての性格を持つことが、その大

きな特色のひとつと言える。
また近年の研究では、庭園自体の内包する政治性だけでなく、１８世紀以降に定着した伝統的な庭園史記述の政治性に着目するものもある。政治的な意図のもとに単純化された進歩史観に基づく庭園史記述の孕む問題についても指摘がなされてきている。
以上のような風景庭園の持つ複合性や伝統的庭園史記述の見直しへの動きをふまえ、本研究は研究対象への学際的アプローチを試みる。主な調査対象としては、風景庭園の成立・発展期として重要な時期である、１８世紀中期イギリスのサーキット・ガーデン（庭園を一定方向に巡る園路を持つ巡回式庭園）の成立と受容に着目することとした。

(2) 研究の背景

研究代表者はこれまで主に美学・美術史研究を背景とする、１８世紀イギリス風景庭園の表象に関する研究を行ってきた。
こうした研究での蓄積を生かし、本研究では研究代表者が既に事例研究に着手したイングランド中部に位置するリーソウズ庭園（The Leasowes）を中心に、イングランド中西部～南部に位置する複数のサーキット・ガーデンとの比較研究調査を進めることとした。

２．研究の目的

本研究は１８世紀中期イギリスにおけるサーキット・ガーデンの成立に重要な役割を果たしたイングランド中部地域の庭園を対象とする比較事例研究を行い、サーキット・ガーデンの成立状況を明らかにすることを主な目的とする。そのうえで特に受容美学的観点から、当時の庭園受容のあり方を検証することを目指す。そのため本研究では庭園史の文脈のみならず、他の芸術・文化的文脈からも風景庭園に検討を加え、風景庭園への学際的アプローチを試みるものとする。
以上を主目的とする本研究のねらいは当時の庭園の考古学的調査や再現にはなく、もっぱら現存する文献資料や視覚資料等を元に、１８世紀中期イギリスにおけるサーキット・ガーデンの成立状況および当時の庭園受容のありかたを可能な限り実証的に検証することにある。
また、上の目的を達成するため、本研究は１８世紀中期イギリスにおけるサーキット・ガーデンの網羅的調査を目指すのではなく、当時の代表的サーキット・ガーデンであるリーソウズ庭園と各庭園との関連に着目する。特に、リーソウズ庭園との地理的関連だけでなく、交友関係を通じた相互関係に基づき、中西部～南部の複数のサーキット・ガーデンに調査対象を限定するものとする。
１８世紀の風景庭園はイギリス庭園史研究に大きな位置を占めるものの、サーキット・ガーデンを限定的に扱った研究は数少ない。本研究では世紀中期のサーキット・ガーデンの成立と受容に着目することで、直線的進歩史観に囚われることなく、伝統的庭園史の記述の見直しに資することを意図する。また付随的目的として、同時期に成立した（日本の回遊式庭園を初めとする）他国の類似例との比較研究に有用と思われる比較材料を提供することが挙げられる。

３．研究の方法

本研究では、主に次に挙げる手順により調査研究を行った。

(1)文献調査

調査対象とするサーキット・ガーデンに関する文献資料調査を行い、日本では入手不可能であり、イギリス国内でのみ入手可能な資料を特定した。このうち郵送や添付による送付依頼が可能なものについては、各所蔵館に複写依頼を行った。

(2)現地調査（イギリス）

主にイギリス（一部フランス）での現地調査により、調査対象となる主な庭園の現況を調査した。加えて現地でのみ閲覧や入手が可能な文献資料の調査・収集を行った。現地調査の実施にあたって、可能な場合には事前に庭園の管理者にコンタクトを取り、庭園の案内や、資料の閲覧等を依頼した。

(3)文献調査

調査対象とするサーキット・ガーデンに関する手稿資料の調査を行い、日本では入手不可能であり、アメリカ国内でのみ入手可能な資料を特定した。このうち郵送や添付による送付依頼が可能なものについては、各所蔵館に複写依頼を行った。

(4)資料調査（アメリカ合衆国）

文献調査の結果をもとに、主な調査先を決定し、訪問時に資料の閲覧と複写を行った。併せて、これまでの現地調査や文献調査により入手済みの二次文献資料と原本の対照作業を行った。現地での調査実施にあたっては図書館司書に事前に調査目的を告げ、短期間で効率的に資料の閲覧が行えるよう準備を整えた。

(5)資料の分析

これまでの調査から得られた記録、文献資料、手稿資料の整理と解読を行い、各サーキット・ガーデンについて個別的に成立状況、

および成立後の受容状況について考察を行った。また、各サーキット・ガーデン間の相互連関についても分析を行い、１８世紀中期イギリスにおけるサーキット・ガーデンの成立と受容に見られる一般的傾向を判断するための材料とした。

４．研究成果

(1)文献調査および現地調査（イギリス）

現地調査により、古地図や文献資料からは判断することの難しい庭園の立体的把握（地形・地勢・植生および庭園周辺地域の環境等）および現況の把握を行うことができた。多くのサーキット・ガーデンでは、庭園内の風景だけでなく庭園外の建築物や景観への参照が求められるため、庭園周辺の環境や状況確認が必須であるとの認識に至った。

またイギリスでの現地調査へ向かう途上フランスに立ち寄り、観賞用農園（*ferme ornée*）やイギリス風景庭園からの強い影響の下、18 世紀後半に成立した庭園であるエルムノンヴィル（Ermenonville 現在の J-J.ルソー公園）、モンソー（Parc Monceau パリ市内）、プチ・トリアノン（Petit Trianon ヴェルサイユ）の三庭園を訪れた。これらイギリス以外のヨーロッパ諸国におけるサーキット・ガーデン受容の歴史的事例との比較は今後の研究調査における課題としたい。

イギリスでの現地調査の対象としたのは次の庭園である。まず、バーミンガム周辺の三名園とされたハグリー庭園（Hagley）、エンヴィル庭園（Envil）、リーソウズ庭園、そしてイングランド中西部～南部に位置するペインズウィック庭園（Painswick）、プライアー庭園（Prior Park）、スタウアヘッド庭園（Stourhead）、ペインズヒル庭園（Painshill）、ウォバーン農園（Wooburn Farm）である。庭園管理者からの聞き取り調査および記録のための撮影を行い、既に入手済みの文献資料や視覚資料の分析に資することができた。また、日本では入手・閲覧が不可能な資料や出版物の入手および調査を行うことができた。一部の非公開庭園については現地のアーキヴィストに依頼を行い、庭園の地図や関連文献資料などの入手を行った。

こうしたサーキット・ガーデンには１８世紀の成立当時から非常に著名であった庭園が多く含まれており、各庭園に関しても既に多くの研究が積み重ねられてきた。ところが、各サーキット・ガーデン間の相互連関については、あまり研究が進められていないという印象を抱いた。今回の一連の調査の過程で、リーソウズ庭園から（直接あるいは間接的に）何らかの影響を受けたと推測される庭園の存在が複数判明した。それと同時に、これらの庭園間には相互の類似点よりもむしろ相違点の方が顕著であることが判明した。

これら、ほぼ同時代に成立したサーキット・ガーデンの間には何らかの相互影響関係が存在することが事前に予想された。だが、各庭園が単純に他庭園の特色を模倣して成立したものとは考え難い。サーキット・ガーデンとしての一定の形式的類似にも関わらず、各庭園の規模や形態は全く異なっている。各庭園にはそれぞれの規模や形態、目的などに応じた造園や鑑賞方法が求められたことが示唆される。

(2)文献調査および資料調査（アメリカ）

アメリカでの主な調査先は、リーソウズ庭園の所有者であった詩人ウィリアム・シェンストン（William Shenstone）を初め、シェンストンの友人で俳優のトーマス・ハル（Thomas Hull）、文人のジョゼフ・スペンス（Joseph Spence）らの手稿を多数所蔵するエール大学図書館（Beinecke Rare Book and Manuscript Library）とした。

事前に行った文献調査から、既刊の手稿資料リスト（*Index of English Literary Manuscripts*, Vol. III, 1992）に未記載の資料が多数存在することが判明したため、直接現地の図書館を訪れて資料の閲覧と複写を行う必要が生じた。アメリカ国内のその他の手稿資料等の所蔵機関については資料の複写依頼を行った。主な依頼先はハンティントン図書館（Huntington Library）、ウェルズリー・カレッジ大学図書館（Wellesley College Library）、フォルジャー・シェイクスピア図書館（Folger Shakespeare Library）の三館である。

これらの手稿資料の多くには１８世紀以降に出版された二次資料が存在するが、今回行った一連の資料調査を通じて、庭園成立期の訪問記録の原本を参照することができ、既刊の二次資料との対照作業を行うことが可能となった。またこれに加え、未刊の一次資料に存在する空白を埋める作業を行う成果をあげることができた。

(3)今後の展望

現地調査を終えたサーキット・ガーデンに関し、庭園間の相互連関について引き続き調査を行う中で、リーソウズ庭園と各地のサーキット・ガーデンの間にシェンストンの文学的・芸術的交友ネットワークを通じた交流や接点が存在する可能性がより一層高まった。こうした相互連関は、従来のイギリス庭園史や英文学史研究の文脈では見過ごされがちなものであると考えられる。今後は、調査か

ら得られた新たな知見を手がかりに、他のサーキット・ガーデンとの関連についても考察を加えることが可能となろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計１件）
岩佐　愛「ウィリアム・シェンストンの庭園論 ―姉妹芸術論の観点から」第 60 回美学会全国大会　平成 21 年 10 月 11 日 於東京大学

６．研究組織

(1)研究代表者
岩佐　愛（IWASA MEGUMI）
武蔵大学・人文学部・講師
研究者番号：40459970

(2)研究分担者

(3)連携研究者